第3章 将来の見通し

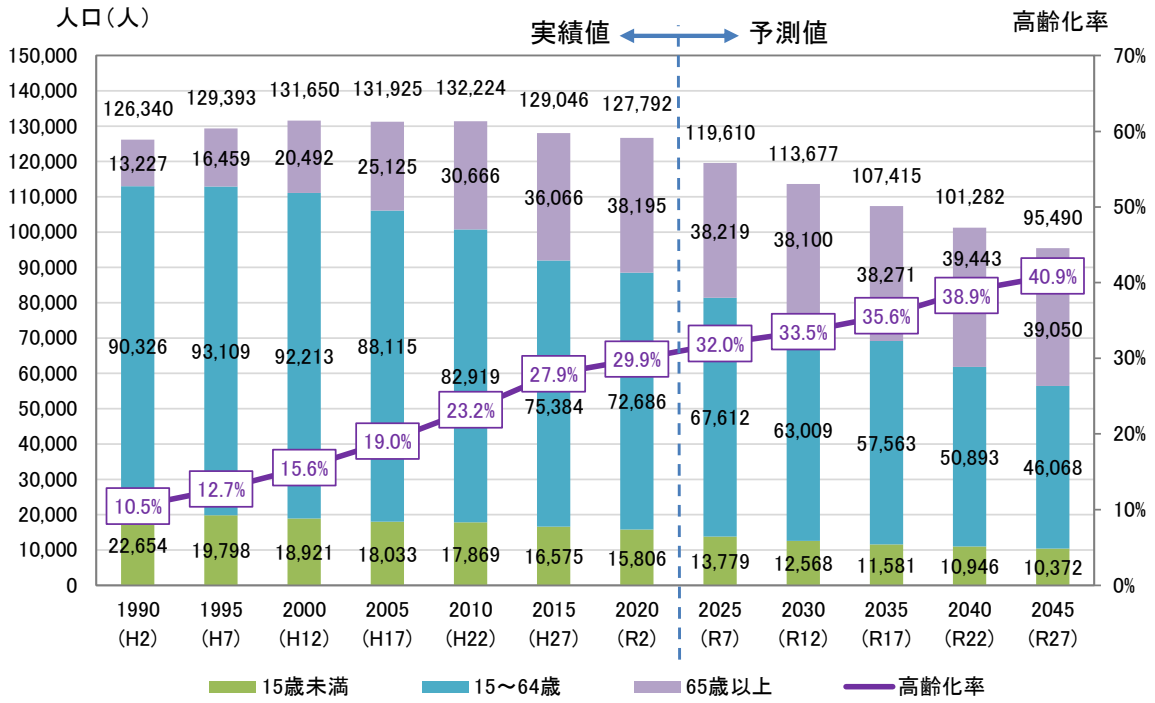
3-1 人口の見通し

（1）将来人口の推移

本市の人口は、2010 年をピークに減少に転じ、2020 年現在の人口は 127,792 人となっています。国立社会保障・人口問題研究所の推計による 2045 年の将来人口は 95,490 人（2020 年比 74.7%）となっており、10 万人を下回ると予測されています。

また、高齢者数は増加傾向にあり、2020 年現在の 38,195 人に対し、2045 年時点では総人口の 40.9%を占める 39,050 人まで増加することが予測されています。

その一方で、生産年齢人口は減少傾向にあり、2020 年現在の 72,686 人に対し、2045 年時点では 46,068 人まで減少することが予測されています。



※実績値には年齢（３区分）別人口以外にも集計上、年齢不詳分があるため、人口合計値はそれを加えた値を示しています

資料：【2020（R2）年以前】国勢調査、
【2025（R7）年以降】国立社会保障・人口問題研究所（H30 推計）

■年齢（3 区分）別人口の動向

（２）将来人口の分布

① 人口増減数の推移

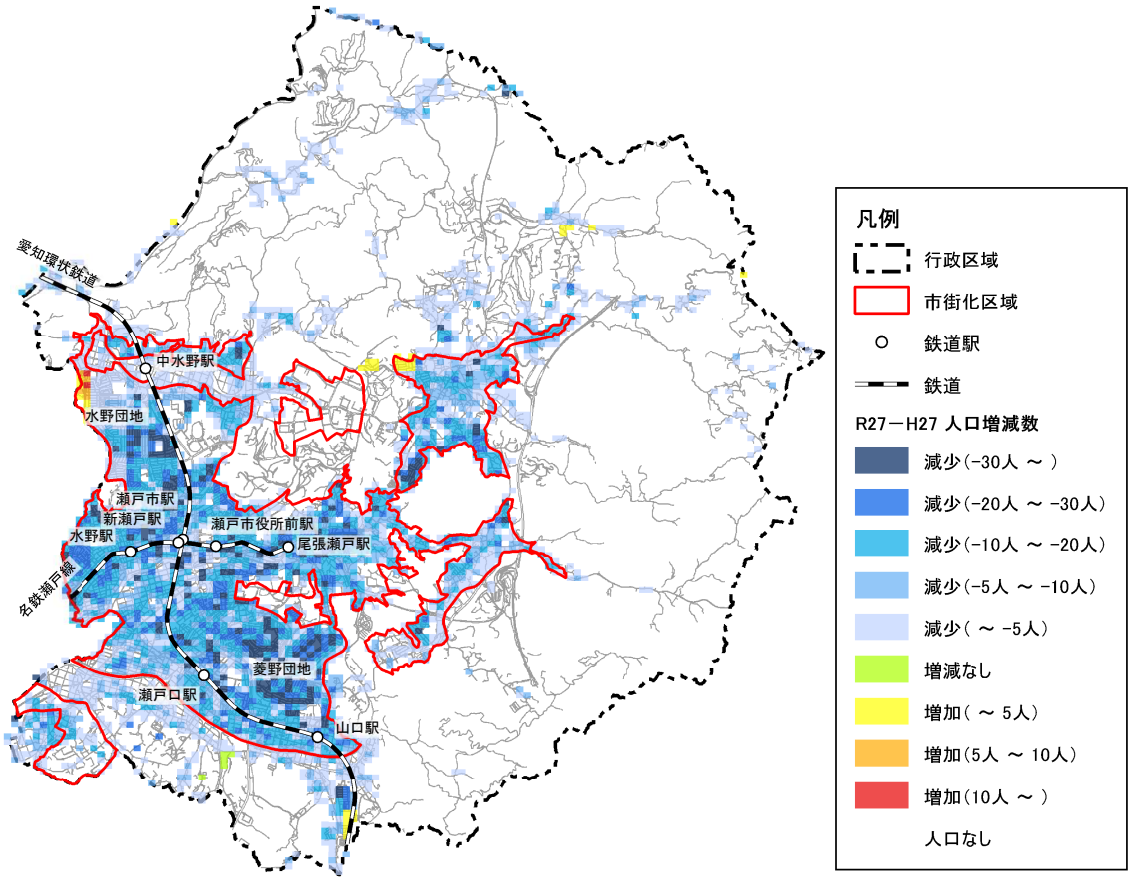
平成 27 年から令和 27 年までの 30 年間の人口増減をみると、市域全体にわたって人口が減少する見通しとなっています。特に、菱野団地や水野団地周辺は、人口が大きく減少することが予測されます。

② 人口密度の推移

人口密度の推移をみると、市中心部の人口密度は、平成 27 年現在よりも更に低くなる見通しとなっています。人口が大きく減少することが予測される菱野団地や水野団地周辺においても、人口密度の低下が予測されます。

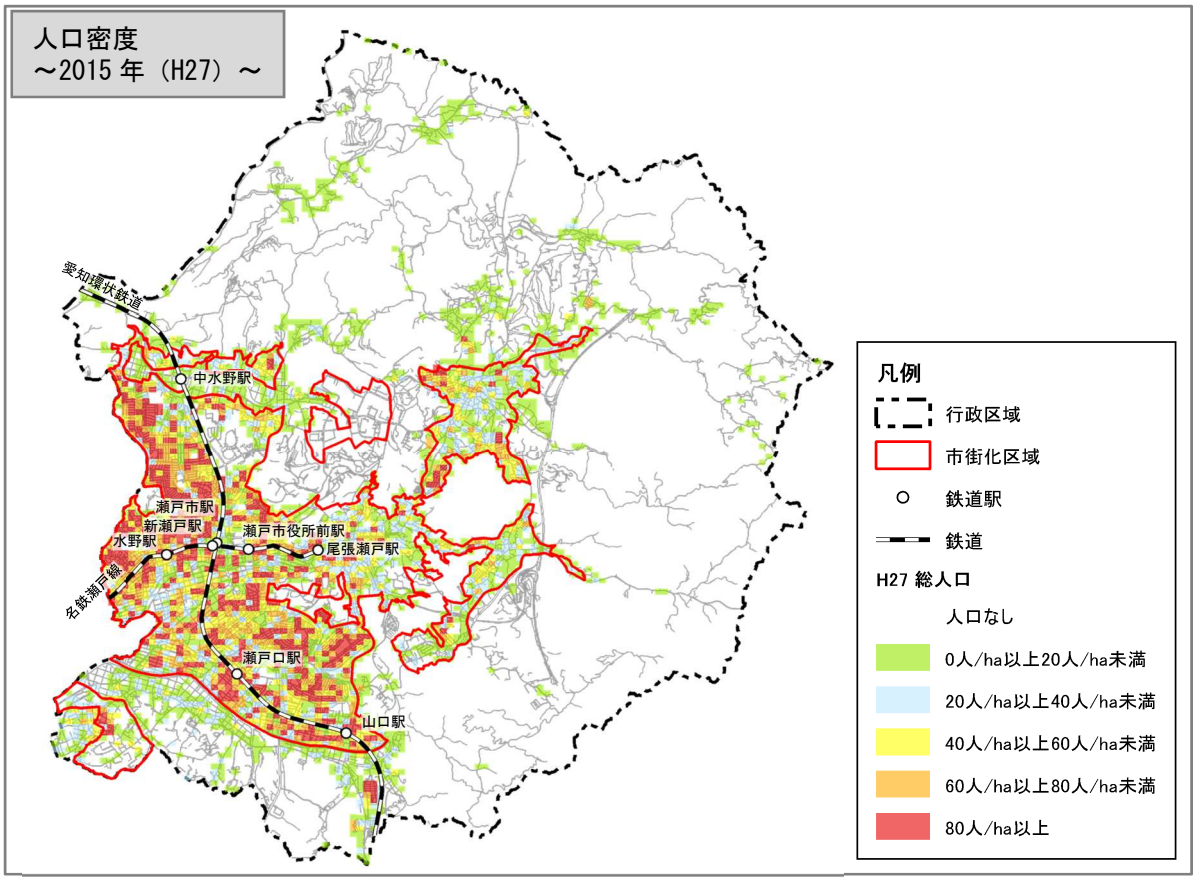
③ 高齢化率の推移

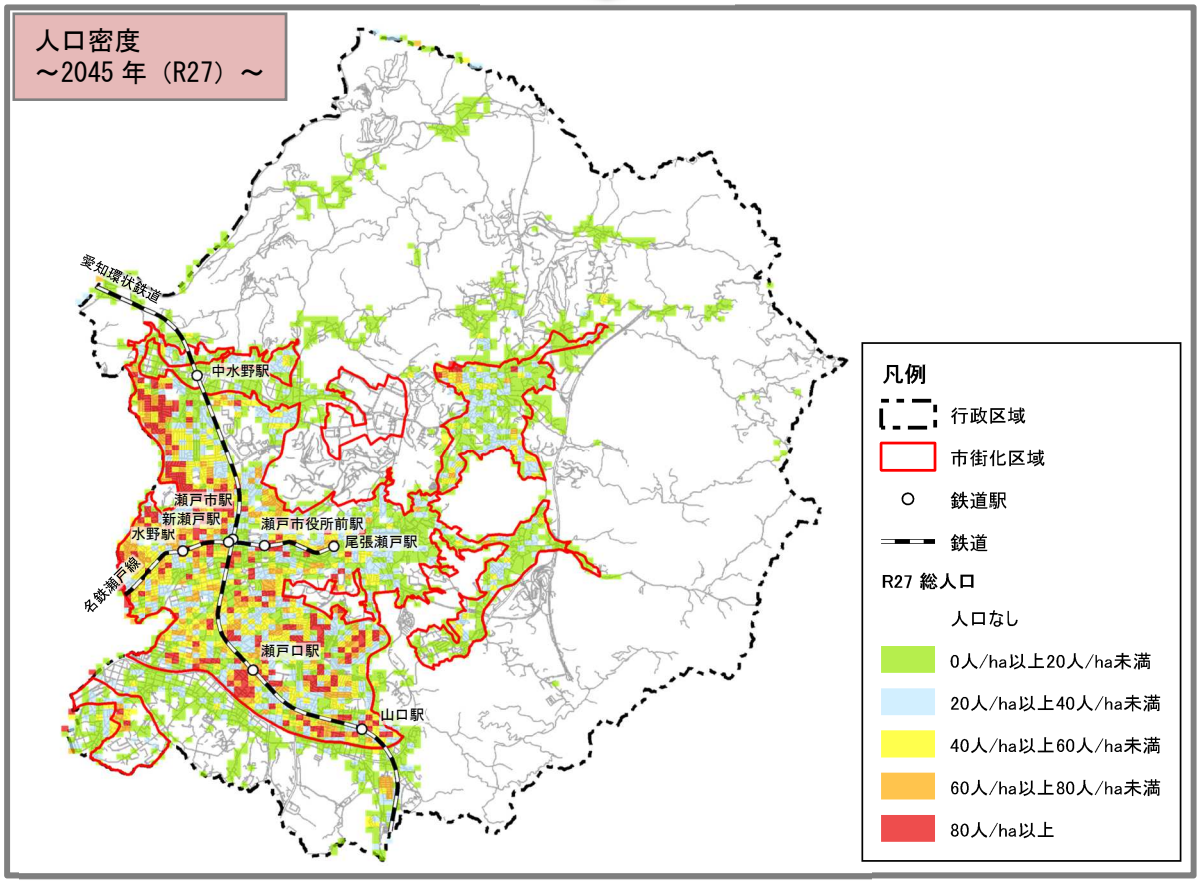
高齢化率の推移をみると、平成 27 年現在は 10～30%が広く分布しているのに対し、令和 27 年時点では大部分が 30～50%となる見通しです。



資料：国勢調査(H27)

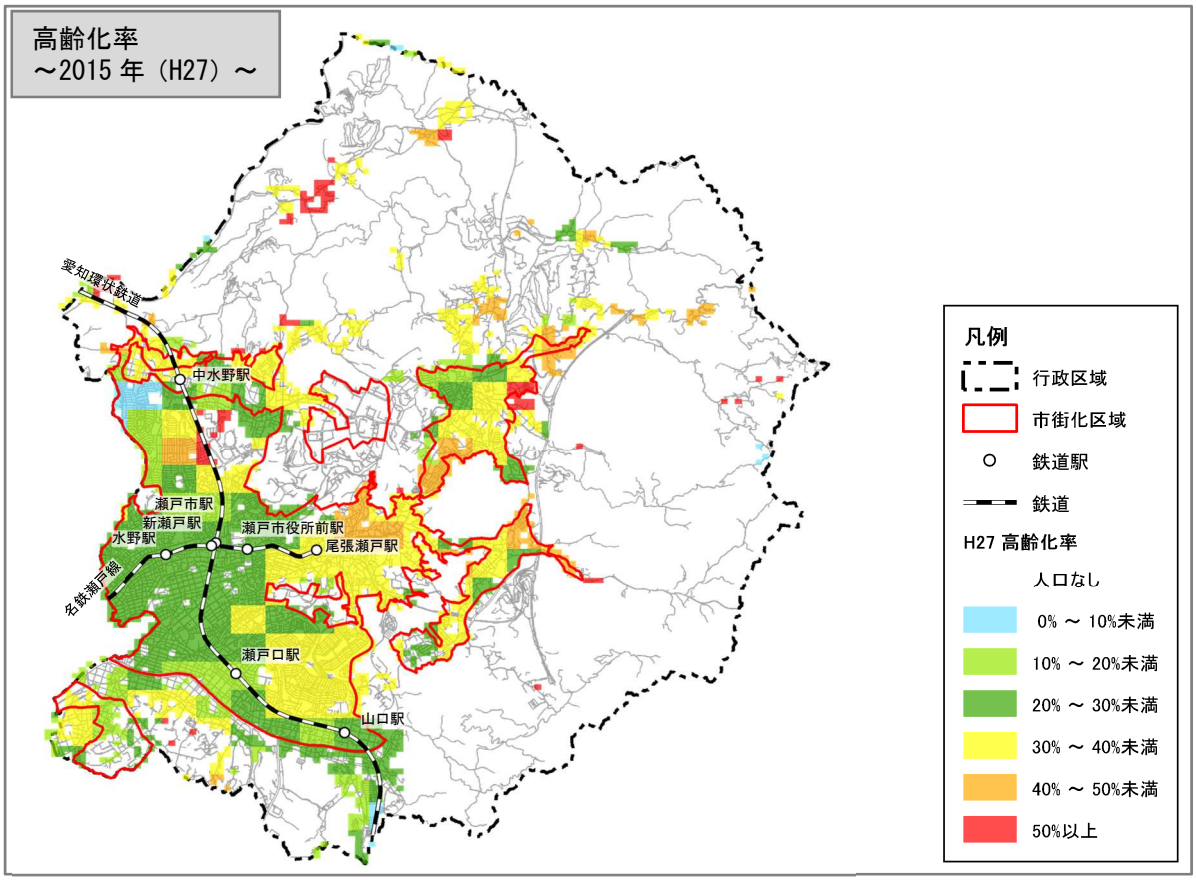
■人口増減数（2015 年→2045 年）

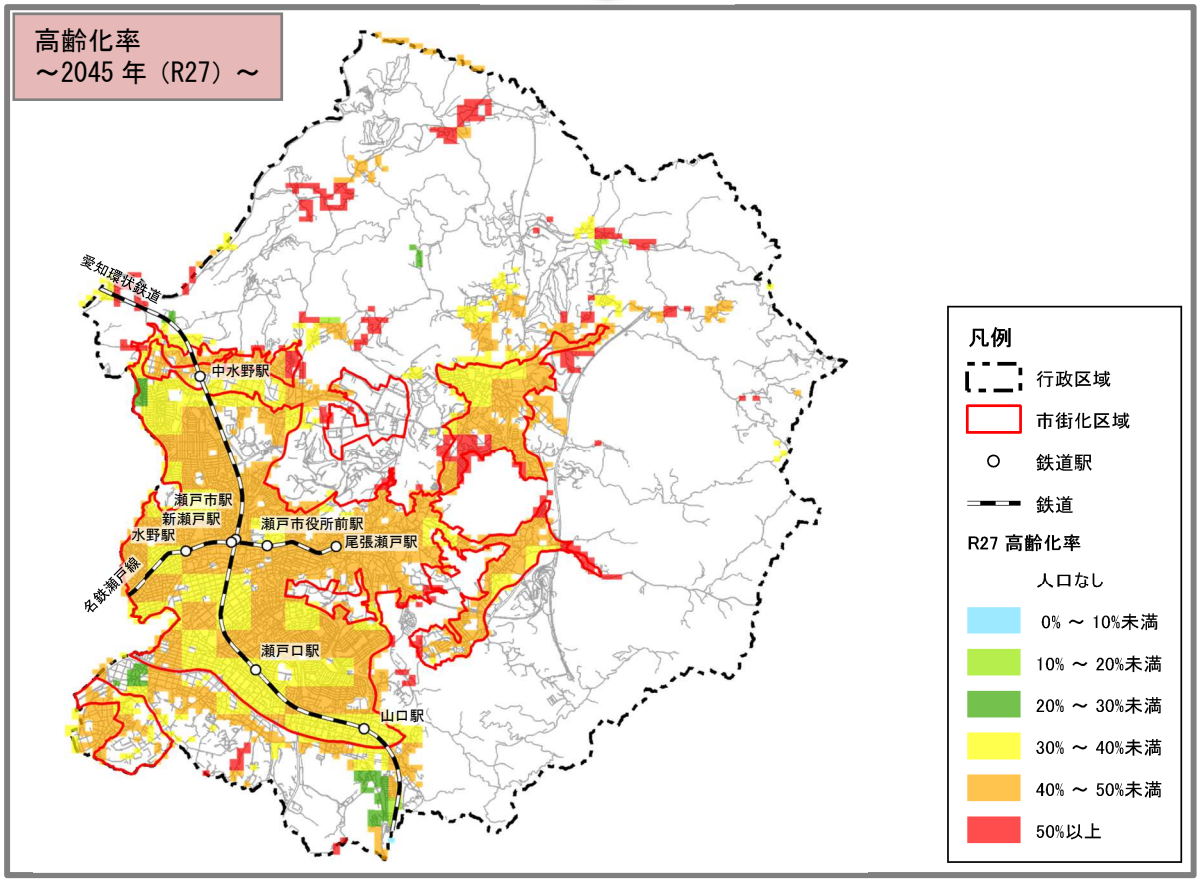




■人口密度の推移（2015 年→2045 年）

資料：国勢調査(H27)





■高齢化率の推移（2015 年→2045 年）

資料：国勢調査(H27)

3-2 瀬戸市のまちづくりを取り巻く環境の変化

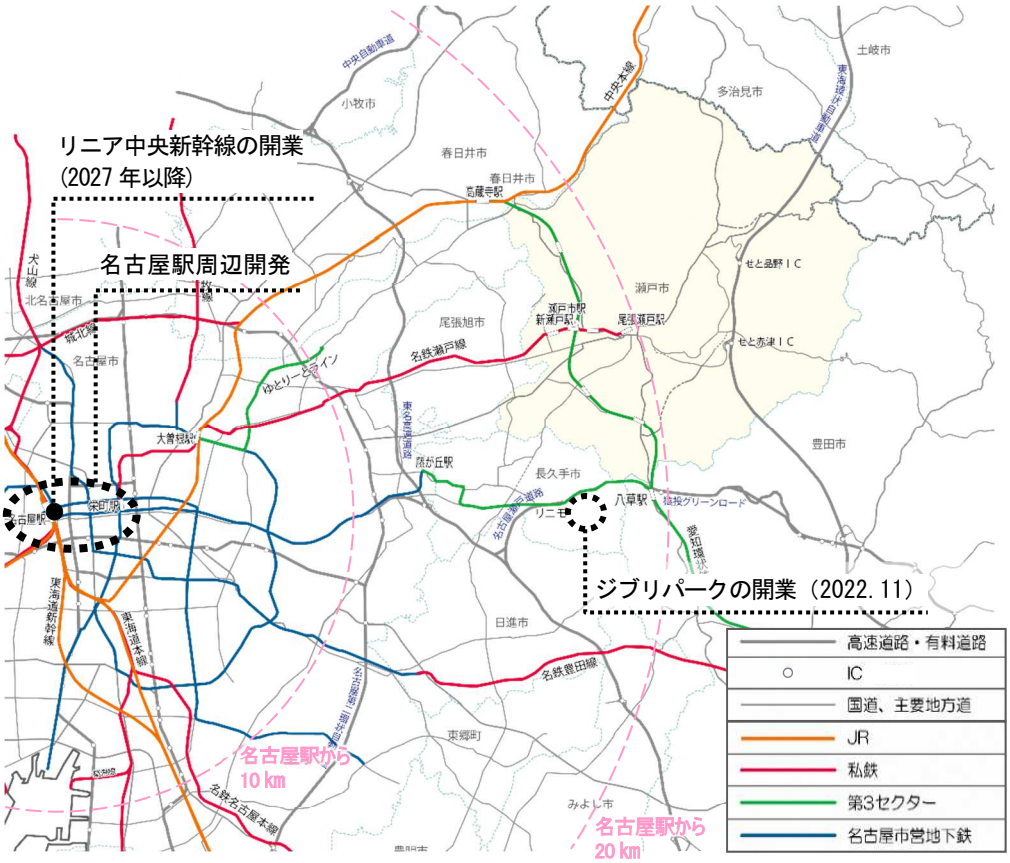
（１）コンパクトシティ推進の継続

新型コロナウイルス感染拡大防止として、「三つの密（密閉・密集・密接）」の回避や外出の自粛等により、人の移動に関し制限が生じ、公共交通の利用についても輸送人員・運送収入ともに急激に減少する等、公共交通の運営に大きく影響を及ぼしました。

また、新型コロナウイルス感染症の影響下における生活様式として、テレワーク利用が拡大し、ニューノーマルに対応した機能（住宅、サテライトオフィス等）の提供が求められ、今後のまちづくりにおいては職住近接のニーズが高まり、働く場と居住の場の融合が進みながら地域拠点が形成されていくものと推測されます。

（２）ウォーカブルなまちづくりの推進

現在、人口減少や少子高齢化が進み、商店街のシャッター街化などによる地域の活力の低下が懸念される中、「居心地が良く歩きたくなるまちなか」からはじまる都市の再生により、都市の魅力を向上させ、賑わいを創出することが求められています。

（３）瀬戸市周辺の主要プロジェクトの動向

2027 年の開業を目指すリニア中央新幹線の整備や名古屋駅周辺の開発など、本市の周辺地域において都市圏をまたぐ集客性の高い施設や拠点整備が行われています。